遠隔地における授業実践―戦時中のポスターを利用して―

岐阜県立岐山高等学校　浅野　伸一

１．実施学年及び教科・領域

高等学校第３学年　地理歴史科 日本史Ｂ

２．学習のねらいと博物館の活用との関連について

（１）主題名　戦時中の生活

（２）ねらい

戦時中のポスターを見てそのポスターの内容を理解し、その意義を考えることをねらいとした。

学習指導要領高等学校日本史Ｂによれば、「第二次世界大戦と日本」に「国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など第二次世界大戦と日本とのかかわりについて考察させる」とあり、戦時中の生活の学習はここに入り、どのようにかかわったかを考察させることになる。

また内容の取扱いの（１）のウの「諸資料の活用について」では、「年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること」とある。

学習指導要領解説によると「実物や複製品などの資料と接して知識・理解の一層の定着を図ったり、さらに具体的で多様な情報を得て歴史の考察を深めたりすることができる」とある。

また内容の取扱いの（３）の「近現代史の指導について」では、「近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的考察し公正に判断する能力を育成するようにする。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、民主的で平和な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させる」とある。

このような学習指導要領を踏まえて授業を試みた。資料の扱い、博物館の利用、公正な資料の取扱いに気をつけることを心がけた。

（３）博物館との関連

国立歴史民俗博物館の貸し出し教材「戦争ポスター」を借用し、教材として利用する。

（４）博物館とインターネット

実践をおこなった３年生は、昨年、２年生の時に修学旅行で歴博へ行っている。その時に事前学習としてインターネットを利用して歴博のあらましと所蔵品について学習して、歴博がどのような博物館であるかを理解している。実際に歴博へ行ったときには古代を中心に見学したが、短い時間の間に全館を見学した生徒もおり、近現代に興味を持った生徒もいた。このように歴博に行っているのでその前提として歴博の基礎知識を学習しているので、次のような学習も可能になった。

３．指導計画

日本史の単元「戦時中の生活」において、戦時中のポスターを利用して授業をしようと考えたのは、歴博の戦時中のポスターを見たことによる。事前学習として授業で戦時中（昭和 12 年～20 年）の歴史を学習して、当時の日本の置かれた状況、さまざまな歴史事象を理解させた。その当時のさまざまな法令、それが国民の生活にどのような影響を与えていたかを理解し、そのまとめとして歴博が所有している戦時中のポスターを利用する学習を試みた。

授業では２人一組のペアをつくり、それぞれポスターを２枚ずつ読み解かせた。

過程	時間	○学習活動　　●学習内容	指導上の留意点
導入	５分	○ポスターの説明をおこなう。	
展開	15分	○配られたポスターの意味を考える。 ○２人で相談しながらワークシートに記入する。 ○ポスターを交換して、次のポスターについても同じことをおこなう。	・2人で協力しあって作業をしているか、質問がないか、机間巡視をしながら聞く。
	20分	○ポスターの意味について発表する。 ○発表者の説明を聞いて疑問や不明な点がないかを考える。 ○質疑応答する。	・発表の際に戸惑うことがあれば、教師が助言する。 ・質問が出ない場合は教師から質問する。
まとめ	５分	○授業を通して理解したことを自分の言葉でまとめる。	・要点をまとめさせる。

４．実践の概要

導入のところで、まず、これまでの学習の復習をした。戦時統制と国民生活の崩壊に関する内容で、当時の国家総動員法に代表される統制法と戦局がきびしくなってきた昭和 18 年ごろからの生活についてあらましを話したが、生徒はこれらの諸事項を基礎知識として戦時中の生活の概略をすでにつかんでいた。

次に、本時で使うポスターについて説明した。歴博の所蔵であること、ポスターの裏面には歴博が調査した内容が記載されていることなどである。

次に 22 枚のポスターとワークシートを配付した。２人でペアをつくり、まず１枚目のポスターについて考察した。続いて他のペアとポスターを交換し２枚目のポスターについても考察した。生徒の反応は初めのうちは物珍しさも手伝って興味津々だった。ポスターを実際に手に取り考えていた。一人で、またペア同士で、いつの時代か、何が書いてあるのか、初めは考え込んでいたが、ポスターの裏に書いてある歴博が作った解説文をヒントにしてポスターを解釈しようと努力していた。このような反応からこの教材の利用価値と有効性の高さがうかがわれた。

このような学習形態は初めての経験であるので、ワークシートの説明をして、机間巡視して指導した。その際にポスターの文字が旧字で書かれている場合どのように読むのか、また、当時の学校制度について、例えば陸軍少年学校の幼年は何歳であるかと質問をしたり、内容の理解に困っている生徒に対して、ヒントを与えて理解できるようにしたりした。

慣れてくると２人で助け合ってポスター理解に奮闘するようになった。

２組のペアに考察の結果を発表させた。写真は最初のペアである。発表のポスターの内容は、啓発新聞についてであり、独特の個人的理解でユニークな発表であった。このポスターは、戦時中の民間人の生活がどのように制限されていたかを知るには価値があるものだった。

ワークシート（ある生徒の例）

戦時中のポスターで日本を考える		
	１枚目	**２枚目**
○ポスターの名前	この仇は俺たちが討つ	国民体力法被管理者調
○いつ頃のものか	昭和 19 年 2 月	1940 年
○ポスターの内容・気づいたことなど	4500 人全員戦死 大和魂に驚愕 米紙報道恐るべきマーシャル戦	国民（男子）のみに体力検査を義務づけその底上げをはかった。
○内容からわかること・疑問 戦争中は、国民にもいろいろなことが義務づけられたり、強制されたりしていて、それをわかりやすく記憶に残るようなポスターで表そうとしていたことがわかった。		

５．成果と課題

（１）この授業のまとめ

生徒のワークシートに書かれた意見をみると、内容を理解し戦時中のポスターについて学び得た知識を利用して、その時代について興味・関心を抱き、ポスターの内容やその意義を的確につかんでいると見られる。例として、陸軍少年飛行兵の募集ポスターについては「戦争中は自分が想像していたものよりも過酷なものであったことがわかった」、「学生も戦争にかり出された過酷な時代であった」、「今では考えられないことがおこっていた」と書いている。これは生徒もこのポスターの対象が自分たちと同年代であることを知っており、今の平和な時代と対比していることがわかる。また同じようなポスターである陸軍特別幹部候補生の募集ポスターでは、「戦争に対する積極的な姿勢と負けると思っていない感情が読み取れる」、「こんなポスターがあり、国が国民に強く訴えていたことが

わかった」としている。戦時中のポスターから時代を読み取っている。とかく通り一遍に教えることになりがちな教材を、今回実施した授業のように、その当時使われたものから推察することは、その時代を理解するうえで極めて大事であることだと考える。

実際に生徒は歴博に行っているので、博物館資料の一つの使い方が示されたと考える。

６．わたしの考える歴博活用案

生徒が歴博に出向いて、館内でその資料を見ながら考察するのが一番よい。しかし、　そのような機会がほとんどない地方の生徒にとっては、歴博に行くことができないかわりに、今回私が実施したような歴博の資料を使用する授業は有効である。実際に授業で利用できる資料は、送付可能な資料に限られるが、それでも歴博にそのような資料が所蔵されており、これを利用することは博学連携の一環として活用されるべきひとつの形態である。教材として扱う時代の現物資料に近いものを利用して学習することに価値があると考える。

（１）実施学年　高校生

（２）学習のねらい

戦時中のポスターを見て、政府の意図することや、そのポスターが表現している現実など国民への情報について考察する。

過程	時間	○学習活動　　●学習内容	指導上の留意点
導入	10分	○戦時中の生活について調査、戦時中のチラシ、新聞、雑誌、ビラ、ポスターなどについて国民にどのような情報提供されていたかを調べ、ポスターについては全員が調べる。したことを　確認する。 ○ポスターの説明をおこなう。 ●戦時中のポスターを2人に１枚配布し、そのポスターの意味を考え、戦時中の生活とどのようにつながっているかを考察する。	・事前に調査したことを提出させる。 ・どうして歴博にこのような資料があるかを説明する。
展開	25分	○ポスターを見て図柄、文字で表現されていることなどから時代背景などを考察する。 ○ワークシートに2人で協力して記入する。 ○ポスターを交換し、新しいポスターについて調べる。	・机間巡視して活動の進捗を見守り、生徒からの質問などを受ける。
まとめ	10分	○まだ調査しなければならないことをあげる。 ○次の授業までに調査することを考える。	